



ガバナー就任挨拶

2011~2012年度 識名安信
337-D地区ガバナー

第94回シアトル国際大会に於いて、7月8日ガバナー就任宣誓式を行い、ライオンズクラブ国際協会 337-D 地区ガバナーに就任致しました。

ここに至るまでの間、地区の皆様から賜りましたご支援とご厚情に心より感謝申し上げ、この輝かしい栄光と伝統を誇る地区の発展を地区役員を筆頭に全ての会員と共に心を一つにして「脚下照顧」の教えを胸に秘め身の丈に合った奉仕活動を実践し粉骨砕身、全力で地区運営に精進することを宣誓致します。



ガバナー就任式にてエレクトのタグを外す
前ガバナーL. 鬼塚俊郎

今まさに国難の時で在ります。

長引く経済状況化にあり閉塞感に満ち溢れた中での未曾有の大震災が発生しました。

ご存知の東日本大震災であります。

全ての日本国民が被害の甚大さに驚愕しました。

最も信頼する大地が崩壊し、生活を育んだ愛する豊穡の海が豹変し全てを飲み込み、原発事故をも誘発しました。

目に見えぬ放射能への不安の中で今なお余震が続く。

地震がどれほど大きな恐怖であったのか想像に耐えません。

それ以上に一瞬にして愛する家族や友人を亡くされた被災者の方々の辛さや悲しみの心中を察すると言葉が見つからないのが本心です。

しかし現在、被災地では茫然自失の中で悲しみを押し堪えながらも明日に希望を繋ぎ復興へ向けてしっかりと前を見据えながら一歩を歩み出す姿には心からの感動を覚えます。

被災地から遠く離れた我が地区ではありますが、決して対岸の火事とすることなく痛みを均しく分かち合い復興へ対して日本国民が心を一つにして不屈の精神で取り組む姿勢が大切ではないのでしょうか。

言い換えれば今後の国難の時代を全ての国民が甘受し、悲しみを胸に秘めつつも長期に渡り復興へ取り組む不退転の決意が必要なのであります。

それが今回、震災の犠牲となられた方々に対しての最高の弔いであり現在生かされている我々の責務だと痛感しています。



動かなければ何も起こらないし、何も変わらない。

何時か出来る、誰かがやると言う先送りや他力本願では全てに於いて実現は成し得ない。

50年余の歴史の中で形骸化された奉仕、又クラブ内だけの自己満足的な奉仕活動に成っていないか立ち止まり見つめ直す時期であり、会員の真心を労力に託し奉仕の在り方を再構築し、会員同士の信頼の絆を深める必要がある。

今、我々ライオンズクラブが成すべき事は会員一人ひとりが皆で心を一つにしてそれぞれが等しくライオンズクラブの会員である事に誇りを持ち更なる奉仕活動に邁進し、「ライオンズとは何か」「ライオンズを通して何が出来るのか」と原点に立ち返り意識改革が急務である。

会員の意識改革の下にクラブの充実発展があり、意識改革がなされなければ残念ではあるがライオンズクラブは衰退の道を進んでしまう。

我々ライオンズクラブは地域社会に対して奉仕活動をする団体です。

地域から評価されるアクティビティとは社会情勢の変化に伴い常に変化していて決して不変ではありません。

今回の震災でもこれに関連し多くを学ばせて頂きました。

震災直後に最も必要とされたのは水、食料品、毛布等、生命に直結する物資でした。

即座に全国各地から緊急支援物資が避難所に送り届けられました。

数週間もすると毛布や衣類関係は事足りてその後に必要とされる支援物資は医薬品や家庭用品、避難先で使用する調理器具、調味料を始めとする自立に向けた物資でした。

しかし、中には支援物資を送るその時点で現況を十分に把握せず毛布や衣服類を送り届ける方々が続出し現在はその処分に困っているのが現実です。

この様に常に時は流れているのだから必要とされているのも刻一刻と変化して当たり前であり、同様、我々のアクティビティも今この時点で最も必要とされているアクティビティを見極める洞察力が求められているのかと推察します。

長きに渡り連綿として続けられて来たアクティビティの再考を求めるのも必須であります。

国難の時に在りながらも 337-D 地区の更なる発展の為に地区内の全ての会員の皆様方と心を一つにして地区運営に精進して参る所存で御座いますので更なるご教示、ご指導は元より地区内で開催される全てのアクティビティに於いて相互理解の精神で会員各位の積極的なご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます地区ガバナー就任挨拶及び基本方針等の報告と致します。

